



< 最近の話題 >

2 型糖尿病治療薬「リベルサス®」とビスホスホネート製剤の同時処方

2型糖尿病治療薬の GLP-1 受容体作動薬の経口剤であるセマグルチドの錠剤(リベルサス®錠)が2021年に発売され、当社の多数薬局で調剤されています。この薬剤は、吸収促進剤であるサルカプロザートナトリウム(SNAC)の添加によって経口投与が可能となっていますが、このSNACの吸収促進作用を十分に発揮させるために、表1に示したように特殊な服用方法となっています。これと同じような服用方法の薬剤はビスホスホネート(BP)製剤ですが、服用時の水の量が、リベルサスは120mL以下、BPは180mL以上である点で異なることです。

ここで問題になるのが、例えば以下のような場合です。

(整形外科) リセドロン酸 Na 錠 75mg 1錠
月 1回
(内科からの以下の処方をお薬手帳で確認)
リベルサス錠 3mg 1錠 1日 1回

この処方例では、月に1回、両剤の起床時内服が重なりますが、飲水量の関係で同時服用はできませんので疑義照会が必要です。疑義照会は、内科の医師に対して、製剤上の特徴から両剤が同時服用できないことを説明し、リベルサスのセマグルチドの半減期が161.1時間と非常に長いため、インタビュー

ホームにも、1回の服用忘れによるセマグルチドの暴露量への影響は小さく一時的であるとの記載があることから、リセドロン酸服用日のリベルサスの休薬を理解いただき、患者にも指導が必要だと思えます。

【参考資料】日薬雑誌、p35-36、Vol.75、No.6、2023

(表1) ビスホスホネート(BP)製剤とリベルサス錠の「用法及び用量に関連する注意」

薬 剤	用法及び用量に関連する注意(添付文書)
<BP製剤> アレンドロン酸 リセドロン酸 ミノドロロン酸 イバンドロン酸	<ul style="list-style-type: none"> ●本剤は水のみで服用すること。水以外の飲み物(Ca, Mg等の含量の特に高いミネラルウォーターを含む)、食物及び他の薬剤と一緒に服用すると、吸収を抑制するおそれがあるので、起床後、最初の飲食前に服用し、かつ服用後少なくとも30分(イバンドロン酸は60分)は水以外の飲食を避ける。 ●食道及び局所への副作用の可能性を低下させるため、速やかに胃内へと到達させることが重要である。服用に際しては、以下の事項に注意すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・起床してすぐにコップ1杯の水(約180mL)と共に服用し、服用後30分(イバンドロン酸は60分)は横にならない。 ・就寝時又は起床前に服用しないこと。
セマグルチド (リベルサス®)	<ul style="list-style-type: none"> ●本剤の吸収は胃の内容物により低下することから、本剤は、1日のうちの最初の食事又は飲水の前に、空腹の状態でもコップ約半分の水(約120mL以下)と共に1錠服用すること。 ●服用時及び服用後少なくとも30分は、飲食及び他の薬剤の経口摂取を避けること。

< 最近の話題 >

人工甘味料と糖代謝について

昨今では、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病、メタボリック症候群のような病気の予防のために、シュガーレスやカロリーゼロなどを標榜した人工甘味料入りの商品が多く出回っています。人工甘味料は砂糖よりも低カロリーであるために、糖尿病や肥満等になりにくいという認識を持っていた患者について、以下のような記事が日経DIオンラインのコラムに掲載されていましたので紹介します¹⁾。

「水分の大半をコーラから習慣的に摂取しているという患者に高血糖になるリスクを説明して、コーラの習慣的接種をやめてもらったが、後日に患者に確認したところカロリーゼロのコーラを飲み続けているという事実があった」ということです。このように、カロリーがゼロだから血糖値に影響しないとか、メタボにならないとかの認識が一般的であるように思います。

しかし、最近の研究では、人工甘味料はかつて考えられていたほど無害ではないことが報告されています。

ダイエット清涼飲料水の習慣的な摂取量と糖尿病発症との関連性を検討した報告では、ダイエット清涼飲料水を週に1カップ(237mL)以上飲む人は、飲まない人と比べて糖尿病発症の危険性が1.7倍高かったとのこと²⁾。また、人工甘味料と糖代謝の関係をマウスで検討した結果では、人工甘味料が腸内細菌叢に変化をもたらし、耐糖

能障害を起こす可能性について示されており³⁾、さらに2022年には、ヒトでの試験で人工甘味料は腸内細菌叢の働きを妨げるのみならず、食後に血糖値を下げにくくする可能性があることについて、学術誌「Cell」で報告されています。

<まとめ>

糖尿病の患者や肥満を気にしている患者などへの指導時において、人工甘味料入りの清涼飲料水などの摂取についてお聞きし、習慣的に摂取していると思われる患者に対しては、糖尿病の悪化や発症のリスクになるため、長期的、習慣的な摂取は控えるように生活指導することも重要であると考えます。

【参考文献】

- 1) DI オンライン、「カロリーゼロ」のコーラに潜む思わぬ落とし穴、
<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/di/column/yokuyoku/202304/579196.html>
- 2) Sakurai M., et al. (2014), Eur.J.Nutr.,53,,251-258
- 3) Suez J., et al. (2014), Nature 514, 181-186